

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立伊島小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒700-0016

岡山市北区伊島町一丁目6番6号

E-mail ishimas@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~ishimas/

幼児児童生徒数 男子 454名 女子 435名 合計 889名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、「未来を拓く心豊かな子どもを育成する」を学校教育目標として、ESDの活動が、児童らの郷土に対する理解の深まりや、郷土を誇りに思う気持ちの醸成などに結びつき、「持続可能な社会」の担い手として望まれる資質の育成に資すると考えている。ESDの実践を通して、①課題設定の能力、②学習への主体的、創造的な態度、③問題解決の能力、④学び方、ものの考え方、⑤自己の生き方といった児童の能力や資質の向上を図った。

具体的には「地域とのつながり」、「共生社会」、「生活と環境のつながり」、「人としての生き方」、「人権」「国際理解」等をテーマに、生活科や総合的な学習の時間を中心として、学年に応じて以下のような学習を行った。

①第1学年「たのしいあき いっぱい」

生活科の学習で総合グラウンドに行き、6月に訪れたときの自然の様子を思い出し、比較しながら秋見つけをした。色づいた葉や木の実などを見つけるたびに、驚いたり、歓声を上げたりしながら、積極的に活動する姿が見られた。そして、

見つけた木の葉や木の実などの秋の自然物を拾う活動を行った。その後、それらを材料として思い思いに大型のビニル袋に飾り付けて服をつくり、ファッションショーをした。工夫してつくる様子が児童観察や記録から見てとれた。季節ごとに同じ場所に訪れ、違いを比べることで、自然の変化に気付くことができた。

②第2学年「どきどき わくわく まちたんけん」

生活科の学習で学区探検を行った。伊島学区内にある建物や施設（8カ所）から興味のある建物や施設、会ってみたい人を児童が決めて活動の計画を立てた上で、保護者付き添いのもと、グループで探検をした。この学習を通して、児童は地域には様々な建物や施設があり、多様な人々が働いたり生活したりしていることに気付き、仕事や地域に対する思いや工夫にも目を向けることができた。児童は、以前よりも伊島学区のことを身近に感じ、地域のことを好きになった自分に気付くことができた。

③第3学年「発見！発見！わたしの伊島」

学区探検や地域の人々の講話などをもとに、地域の自然、施設、産業、伝統文化などについて調べ、地域の特徴について調べてまとめた。体験的に学ぶ機会を通して、学習したことを学習発表会等で報告した。活動を通じて地域住民と関わりながら、身近な施設の便利さやふるさとの歴史等を知ることによって、地域のよさを感じ取ったり地域への愛着を深めたりすることができた。

④第4学年「めざせ！バリアフリー伊島」

社会科や国語科、道徳との関連をはかりながら、「障害とは何か」「障害のある人が困っていること」「ボランティアをする人の思い」等をテーマに、「人にやさしい町づくり」について学習した。「車いす」、「点字」、「手話」などに体験的に接し、身近な暮らしの中のバリアフリーの大切さについて考えた。

学習の成果を発表する場を設定し、「人にやさしい町づくり」の提言に関わろうとする態度の育成を図った。発表会に向けて、バリアのない町をめざすためには、自分たちに何ができるかを話し合う中で、「人にやさしい町」とは、障害のある方だけでなく、小さい子からお年寄りまで、誰もが住みやすい社会であることを知り、バリアフリーの町づくりの実現のために、まずは身近でできる取組を考えたり、気付いたりすることができた。

⑤第5学年「守ろう！私たちのふるさと伊島」

環境課題について、ビデオ教材や図書資料などから調べたり、自動車会社や製紙会社の方から環境を守る活動についての話を聞いたりした。そこで働く人々の願いや努力の様子などから、地球環境の現状や自分達の生活の在り方を改めて見つめ直し、自ら関心をもった内容を課題として設定し、深く調べたり、実際に活動したりした。節電や古紙回収の呼びかけ、清掃活動などを校内や家庭で行ったり、保護者や地域、下学年に向けて学習のまとめを発表したりして、自分にできる環境保全のための活動をすることができた。

⑥第6学年「わたしたちにできる国際協力」

世界の子ども達の生活の様子について調べたり、外部講師の方の話を聞いたりすることで、支援を必要としている世界の国々の現状を学んだ。そして、自分た

ちにはできないことはないだろうかという思いをもとに、クラスで話し合い、自分たちで取り組むことを決め、今年度はカンボジアの日本語学校に通う子どもたちのために、「反対語かるた」「あいうえお表」「手作りのバッグ」「おもちゃ」などの製作と寄贈、「書き損じハガキを回収し、カンボジアの地雷撤去活動を支援する活動」への協力を行った。カンボジアの子どもたちと交流することなどを通して、自分たちが考え行動したことが相手の役に立っていることや、喜んでもらっていると実感し、相手を正しく知ること、相手の立場に立って考えることの大切さを学ぶことができた。また、自分たちにできることに取り組もうという思いをもつことができた。



① の写真



② の写真



③ の写真



④ の写真



⑤ の写真



⑥ の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2、2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p><書籍・パンフレット> 教科書（生活科・社会科・国語科） ユニバーサルデザインとバリアフリーの図鑑 岡山市環境白書 地球温暖化への取り組み パンフレット</p> <p><ウェブサイト> 子ども環境省・JCCCAこどもプラザ JCCCA全国地球温暖化防止推進センター COOL CHOICE未来のために、いま選ぼう。</p> <p style="text-align: right;">など多数</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2、 1-3 に対応

生活科・総合的な学習の時間を中心として活動を位置づけている。①課題設定の能力、②学習への主体的、創造的な態度、③問題解決の能力、④学び方、ものの考え方、⑤自己の生き方といった児童の能力や資質の向上を目標に、「つかむ」→「調べる」→「まとめる」→「広げる」を学習の大きな流れとしている。校内研究と関連づけながら、学習意欲を高め、自分の気付きや考えをもつこと（「つかむ」）、考えをより質の高まったものに練り上げること（「調べる」「まとめる」）、学習の中で分かった喜びを味わうこと（「広げる」）を目指して指導方法の工夫や改善に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

職員会議や校内研修において、ESDの取組について共通理解を図ったり、活動の経過を報告・共有したりする場を設定している。また、校内研究として、低・中・高の授業公開・参観を行い、指導計画や内容、指導方法について話し合い、理解を深めている。どの学年も1年間のESDの実践を1つ下の学年に発表することにしており、児童らも教員も他学年の取組を知る機会となっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内の研究のアンケート、校内外の学校評価アンケートの中にESDに関わる項目や自由記述の欄を設けている。成果としては、教師が児童の考えを練り上げるイメージがつかめたこと、シンキングツールの活用の仕方の周知、教師主導から児童が主体の授業への転換などがある。課題は、限られた時間の中で、いかに効果的な学習を進め、継続させていくか。初めの計画をもとに参画活動を行ったが、その上でさらに試行錯誤し再度実践したり活動を広めたりする体験活動が十分ではなかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内では、保護者に向けて参観日などに活動の経過やまとめを発表し、ESD活動への理解を深めたり、協力をお願いしたりしている。また、公民館の行事として、児童の活動を地域に発信したり、こんな学区にしたいと話し合ったりする機会がある。成果としては、児童の学習活動を知ってもらうことで、家庭でも調べ学習や材料等の準備に対する協力を得ることができた。また、節電や節水など環境保全のための実践や書き損じはがき回収など、家庭や地域と一緒にあってよりよい地域について考えたり、実践したりすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ゲストティーチャーとして地域の人材を登用し、有効に活用している。町探検や学区探検における地域の公共施設や店を訪問、福祉体験での社会福祉協議会を通しての体験活動、環境学習での自動車会社や製紙会社の方のお話、カンボジアのむつみ日本語学校の檜尾先生のお話やメールでの交流など、様々な機関や多くの方々の協力を得ながら学習を進めている。また、教員の授業力・指導力向上のために、大学の先生を講師に招いて学習する機会も設けている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

市内のユネスコスクールの担当者の研修会があり、ESDの基本的な考え方や他校の実践について学ぶ機会がある。その他のユネスコスクールとの交流はもてていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童らが、自分たちのふるさとに興味・関心をさらに強くもつようになり、地域の人たちと力を合わせて、ふるさと伊島を大切にし、未来へつないでいこうとする姿勢が見られるようになってきている。特に、実際に実践と発表の部分に、力を入れて取り組んできた。そのため「自分は地域のためにこんなことができた」「自分たちがしたことでも喜んでもらった」「自分の頑張りを知ってもらえた」という思いをもつことができ、児童らの達成感も大きかった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

児童らの考えや思いを引き出しながら、今年度の活動を生かして活動を進めていく。

- 第1学年「たのしいあき いっぱい」
- 第2学年「ドキドキ わくわく まちたんけん」
- 第3学年「発見！発見！わたしの伊島」
- 第4学年「めざせ！バリアフリー伊島」
- 第5学年「守ろう！わたしたちのふるさと伊島」
- 第6学年「わたしたちにできる国際協力」

2・3年生の学習に重なる部分があったので、訪問する場所を精査するとともに、各学年の目標（学習の終末における児童の姿）を設定する。